

事業概要

(平成28年度のまとめ)

目 次

I	概要	
1	京都府立図書館の概要	1
2	平成28年度の主な取組	1
3	平成28年度の主な利用状況等	3
II	図書館資料	
1	総資料・年間収集資料	4
	(1) 総資料数	
	(2) 年間収集資料数	
2	図書	4
	(1) 資料数	
	(2) 館内閲覧・個人貸出用図書の分類別数	
	(3) 視聴覚資料・障害者用資料数	
3	逐次刊行物	5
III	利用状況	
1	開館日	6
2	入館者	6
3	新規利用登録者	6
4	ホームページアクセス	6
5	個人貸出	6
	(1) 貸出者数	
	(2) 貸出図書数	
	(3) 借受提供数	
6	複写利用	7
7	調査相談等	7
	(1) レファレンス	
	(2) 他館紹介状発行	
	(3) 他館所蔵資料複写	
8	障害のある方へのサービス	7
	(1) 対面朗読サービス	
	(2) 点字・音声資料貸出	
9	マルチメディア利用	8
10	図書館等への貸出	8
	(1) 相互貸借	
	(2) 機関貸出	
	(3) 一括貸出（貸出文庫）	
11	学校への貸出	9

IV	事業	
1	市町村連携・市町村支援	10
	(1) 京都府図書館総合目録ネットワーク	
	(2) 連絡協力車	
	(3) 図書館・読書施設等職員研修	
	(4) 京都府図書館等連絡協議会	
2	学校支援	13
	(1) 学校支援セット	
	(2) 来館型調べ学習等	
3	調査研究・課題解決支援及び情報発信	14
	(1) 大学連携	
	(2) 館内見学会	
	(3) 図書館活用講座	
	(4) 講演会等	
	(5) 資料展示	
	(6) 地域連携	
	(7) 広報	
V	施設等	
1	施設及び設備等	19
2	組織	20
3	経費	20
VI	沿革	
1	年表	21
2	歴代館長	24
	資料	25
	・京都府立図書館基本方針	
	・京都府立図書館資料収集方針	
	・京都府立図書館サービス計画（平成28年度～平成32年度）の概要（広報用資料）	

I 概 要

1 京都府立図書館の概要

京都府立図書館は、日本で最初の公立の図書館である「集書院」を源流とし、明治31年に京都御苑内に設立され明治42年に現在の岡崎の地に移転して以来、百年を超える長い歴史と伝統を刻んでいる。

平成7年の阪神・淡路大震災により建物が大きく損傷したため、ルネサンス風の外壁正面部を残して建替工事を進め、平成13年に地上4階地下2階建の新館を開館した。この間に、府の社会教育委員会議から市町村立図書館との役割分担を打ち出した「生涯学習社会を展望する京都府の図書館の在り方について」の提言を受け、明治の雰囲気を残した現在の建物で、特に市町村支援と調査研究支援を中心とする取組を進めてきた。

平成27年度には新たな「京都府立図書館基本方針」及び平成28年度から5年間の「京都府立図書館サービス計画」（以下「サービス計画」という。）を策定し、変化の激しい社会において新たな課題に直面する府民の知的活動の拠点となるとともに、府内全域に均質な図書館サービスを提供することにより、府民に期待される存在となることを目指している。

基本方針

- I 府内全域の図書館をつなぎ、支援するとともに、協力して図書館サービスを展開します
- II 多様な文化資源の情報を取り扱い、歴史と立地を活かしながら、幅広い調査研究のニーズに応えます
- III 議論し発信する場を提供し、課題を解決する拠点となることにより、文化の創造と地域の活性化に寄与します

2 平成28年度の主な取組

サービス計画の初年度に当たる平成28年度は、基本方針の実現に向けて、図書館サービスのさらなる向上や知事部局をはじめ様々な機関と連携した新規事業に取り組むとともに、当館の機能や取組の広報に努めたところである。

(1) 府内の各図書館とのネットワークの強化

平成28年3月に、府立図書館と府内の市町村立図書館等の蔵書をインターネット上で一括検索できるシステムの大幅更新を行うことにより、資料検索速度の飛躍的な向上を図った。

また、斬新なサービスを展開する株式会社カーリル（以下「カーリル」という。）と協定を締結するとともに、11月からは国立国会図書館、同志社大学、筑波大学、千葉大学、カーリルと産官学プロジェクトを開始するなど、システムの検索精度のより一層の向上に取り組むこととした。

さらに、大学が所蔵する専門書を地元の図書館でより容易に閲覧できるように大学図書館

との連携に努め、7月には京都大学附属図書館と相互貸借の試行を開始した。京都教育大学附属図書館、佛教大学附属図書館、福知山公立大学メディアセンターとも協議を進め、京都教育大学附属図書館とは平成29年3月に協定書を締結し、平成29年4月から本格実施することとした。

(2) 各種講座の実施と近隣文化施設との連携

京都府教育委員会が培ってきた大学との繋がりを活用し、「京都府立図書館連続講座」を年間6回開催した。京都で活躍されている研究者の講演を聴いた後も、学びの場として図書館を活用していただけるように、会場内に講演内容に関連した図書を展示し、図書リストを参加者へ配布するなど、図書館ならではの取組も行った。

また、日頃見ることができない図書館のバックヤードや自動化書庫等も見学できる「館内見学会」を毎月第3水曜日に実施するとともに、新聞記事の探し方やデータベースの使い方について学習する「図書館活用講座」を年間10回開催した。図書館活用講座では、図書館の様々な資料を活用して書籍を出版された方の講演や、障害者向け音声資料の利用法の説明等、これまでにないテーマにも取り組んだ。

近隣文化施設との連携としては、「京都岡崎魅力づくり推進協議会」に加盟し、8月には岡崎プロムード星の饗宴連携企画として、府立桃山高等学校吹奏楽部による野外コンサートや京都大学大学院理学研究科附属花山天文台と連携した「4次元デジタル宇宙シアター」の視聴等にも取り組んだ。

10月にはロームシアター京都上演作品との連動企画として『わたしは真悟』SF読書会を実施するとともに、京都市美術館の企画展に合わせた展示も行った。

(3) 京都府立図書館協議会の設置

図書館法第7条の3により「図書館は、その運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない」と定められている。

この評価に当たって、外部有識者の知見を活用する仕組みとして図書館法第14条から16条による「図書館協議会」を設置するための「京都府立図書館条例」が、平成28年9月京都府議会定例会において可決・成立し、平成29年4月1日付けで施行されることとなった。

なお、委員については、学識経験者、学校教育関係者、社会教育関係（図書館・美術館関係）者、家庭教育関係者及び公募の10名から構成することとし、平成29年3月定例教育委員会で議決された。

3 平成28年度の主な利用状況等

区 分	平成28年度	平成27年度
総 資 料 数	1,256,599 冊	1,231,258 冊
開 館 日 数	287 日	286 日
入 館 者 数	288,424 人 (1日平均1,005 人)	287,026 人 (1日平均1,003 人)
新 規 利 用 登 録 者 数	5,069 人	5,193 人
ホ ー ム ペ ー ジ ア ク セ ス 件 数	489,221 件	625,372 件
個 人 貸 出 冊 数	190,879 冊	202,015 冊
複 写 利 用 件 数	217,266 枚	240,874 枚
調 査 相 談 件 数	16,141 件	15,527 件
マ ル チ メ デ ィ ア 利 用 者 数	51,686 人	33,440 人
図 書 館 等 へ の 貸 出 冊 数		
・ 府 内 市 町 村 立 図 書 館 等 (うち相互貸借)	52,509 冊 (19,178 冊)	52,374 冊 (21,616 冊)
(うち機関貸出)	(875 冊)	(- 冊)
(うち貸出文庫)	(32,456 冊)	(30,758 冊)
・ 他 府 県 公 立 図 書 館 ・ 大 学 等	580 冊	636 冊
・ 学 校 図 書 室 (うち学校支援セット貸出)	21,534 冊 (17,505 冊)	19,697 冊 (16,070 冊)
(うち機関貸出)	(4,029 冊)	(3,627 冊)

Ⅱ 図書館資料

1 総資料・年間収集資料

(1) 総資料数	1,256,599 冊	
	うち図書	962,958 冊
	うち逐次刊行物（図書換算）	293,641 冊
 (2) 年間収集資料数	図書（視聴覚資料を含む。）	21,374 冊
	逐次刊行物（購入のみ）	388 タイトル

2 図書

(1) 資料数 (単位：冊)

区 分	28年度受入冊数				28年度末資料数			
		購 入	寄 贈	その他		児 童 書	京 都 資 料	外 国 語 資 料
閲覧・貸出用	13,823	11,189	1,974	660	839,877	47,072	24,463	19,351
図書資料	13,286	10,748	1,892	646	815,167	47,072	24,463	19,351
視聴覚資料	537	441	82	14	24,710	0	0	0
貸出文庫等	7,551	7,485	66	0	123,081	83,209	0	0
合 計	21,374	18,674	2,040	660	962,958	130,281	24,463	19,351

(注) 外国語資料には、児童書及び京都資料の外国語資料を含む。

(2) 館内閲覧・個人貸出用図書の分類別数 (単位：冊・%)

分 類	28年度末冊数	(百 分 比)
0 総 記	41,164	(4.9)
1 哲 学	41,856	(5.0)
2 歴 史	89,758	(10.7)
3 社 会 科 学	178,407	(21.3)
4 自 然 科 学	52,552	(6.3)
5 技 術	59,837	(7.1)
6 産 業	43,920	(5.2)
7 芸 術	59,706	(7.1)
8 言 語	15,353	(1.8)
9 文 学	161,351	(19.2)
小 計	743,904	(88.6)
教 科 書	23,913	(2.8)
児 童 書	47,072	(5.6)
そ の 他	24,988	(3.0)
合 計	839,877	(100.0)

(3) 視聴覚資料・障害者用資料数

視聴覚資料

(単位：タイトル・点)

区 分	28年度末タイトル数 (点 数)
C D	716 (857)
C D - R O M	1,511 (1,634)
D V D	2,367 (2,369)
D V D - R O M	399 (399)
ビ デ オ テ ー プ	3,172 (3,183)
カ セ ッ ト テ ー プ	887 (2,710)
マイクログフィルム	125 (8,452)
マイクロナッシュ	402 (3,730)
デ イ ジ ー	1,376 (1,376)
合 計	10,955 (24,710)

障害者用資料

(単位：タイトル・点)

区 分	28年度末タイトル数 (点数)	摘 要
大 活 字 本	3,578 (3,578)	
点 字 図 書	19 (278)	
カ セ ッ ト テ ー プ	887 (2,710)	上の表の「カセットテープ」の再掲
デ イ ジ ー	1,376 (1,376)	上の表の「デイジー」の再掲
合 計	5,860 (7,942)	

3 逐次刊行物

(単位：タイトル)

区 分	28年度購入数	既存受入数
新 聞	18	110
雑 誌	370	10,623
合 計	388	10,733

Ⅲ 利 用 状 況

- 1 開 館 日 287 日
- 2 入 館 者 288,424 人 (1 日平均 1,005 人)
- 3 新規利用登録者 5,069 人 有効登録者累計 116,166 人
 { 京都市内 80.8 %
 その他府内 8.9 %
 他府県 10.3 %
- 4 ホームページアクセス 489,221 件
- 5 個人貸出 (利用者登録を行っている個人への貸出)
- (1) 貸出者数 延べ 76,395 人 (1 日平均 266 人)
- (2) 貸出図書数 190,879 冊 (1 日平均 665 冊)
- (3) 借受提供数 (他の図書館等から資料を借り受けて利用者へ提供したもの)

(単位：冊)

借 受 先		借受冊数	摘 要
府内	市 町 村 立 図 書 館 等	1,446	地域別内訳は下表 (※)
府外	国 立 国 会 図 書 館	77	東京本館64、関西館13
	府 外 公 立 図 書 館	1,019	滋賀県立227、大阪府立97、大阪市立69、奈良県立60、兵庫県立50 他
	府 外 大 学 図 書 館 等	12	
	府 外 小 計	1,108	
合 計		2,554	

※市町村立図書館等の内訳 (単位：冊・%)

地 域 区 分	借受冊数 (百分比)
京 都 市	238 (16.4)
乙 訓 地 域	89 (6.2)
山 城 地 域	511 (35.3)
南 丹 地 域	154 (10.7)
中 丹 地 域	240 (16.6)
丹 後 地 域	140 (9.7)
そ の 他	74 (5.1)
合 計	1,446 (100.0)

6 複写利用

(単位：枚)

区 分	利用枚数	摘 要
図 書 資 料	193,927	白黒188,585、カラー5,342
CD-ROM、外部データベース	6,953	
マイクロフィルム	5,548	
国立国会図書館デジタル化資料	10,360	
遠 隔 地 複 写	478	遠隔地等の利用者（非来館者）に対して、 当館所蔵資料の複写物を郵送するサービス
合 計	217,266	

7 調査相談等

(1) レファレンス

(単位：件)

区 分	件 数
調 査 相 談	15,808
マルチメディア相談	271
市町村・府立学校からの調査相談	62
合 計	16,141

(2) 他館紹介状発行

33 件

(3) 他館所蔵資料複写

193 件

8 障害のある方へのサービス

(1) 対面朗読サービス

(単位：人・時間)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
利用者数	7	10	9	11	4	4	5	4	4	4	2	4	68
利用時間	14	20	18	22	8	8	10	8	8	8	4	8	136

(2) 点字・音声資料貸出

(単位：点)

資料区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
テープ	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
C D	21	0	21	10	10	20	10	10	24	10	10	11	157
デイジー	32	39	19	34	28	43	53	60	53	40	32	46	479
合 計	54	39	40	44	38	63	64	70	77	50	42	57	638

9 マルチメディア利用

(単位：人)

利用区分	利用者数
インターネット閲覧端末	43,249
C D - R O M 閲覧端末	145
A V (映像・音声) ブース	4,051
外部データベース閲覧端末	2,715
マイクロフィルム閲覧端末	754
国立国会図書館デジタル化資料閲覧端末	772
合計	51,686

10 図書館等への貸出

(1) 相互貸借

(単位：冊)

貸出先	貸出冊数	摘要
府内市町村立図書館等	19,178	地域別内訳は下表(※)
他府県公立図書館・大学等	580	
合計	19,758	うち取寄せ申込みeサービスによる貸出2,421

※市町村立図書館等の内訳 (単位：冊・%)

地域区分	貸出冊数	(%)
京都市	2,608	(13.6)
乙訓地域	2,042	(10.7)
山城地域	5,891	(30.7)
南丹地域	3,092	(16.1)
中丹地域	3,299	(17.2)
丹後地域	2,155	(11.2)
府立総合資料館	4	(0.0)
その他	87	(0.5)
合計	19,178	(100.0)

(注) 市町村立図書館等を経由し小中学校へ貸し出した学校支援セット等は含まない。

(2) 機関貸出

(単位：冊)

貸出先	貸出冊数	摘要
府の機関	844	府民力推進課、総合教育センター等
その他	31	
合計	875	

(注) 学校への機関貸出は別掲

(3) 一括貸出（貸出文庫）

（単位：冊）

区 分	貸出冊数	摘 要
貸 出 文 庫	32,456	10市町(組合)教育委員会、1府立学校

※貸出内訳

（単位：冊）

貸 出 先	冊 数	貸 出 先	冊 数	貸 出 先	冊 数
大 山 崎 町	2,301	南 丹 市	3,871	伊 根 町	4,133
城 陽 市	330	綾 部 市	1,800	京 丹 後 市	2,738
京 田 辺 市	1,460	福 知 山 市	1,672	府 立 豊 学 校	310
相楽東部広域連合	2,131	宮 津 市	11,710		

11 学校への貸出

（単位：冊）

区 分	貸出冊数	
学校支援セット貸出	高 等 学 校 版	7,831
	府立高等学校への貸出	6,471
	府立特別支援学校への貸出	1,080
	総合教育センターへの貸出	280
	小 中 学 校 版	9,674
	市町(組合)立小中学校への貸出	6,482
	市町村立図書館への貸出	593
	府立高等学校への貸出	1,496
	府立特別支援学校への貸出	50
	総合教育センターへの貸出	1,053
小 計	17,505	
機 関 貸 出	市町(組合)立小中学校への貸出	24
	府立高等学校への貸出	3,983
	府立特別支援学校への貸出	20
	私立学校への貸出	2
	小 計	4,029
合 計	21,534	

(注) 学校支援のための学校以外への貸出を含む。

IV 事 業

1 市町村連携・市町村支援

京都府立図書館では、約120万冊の蔵書や各種のデータベースを揃え、府民の調査研究に役立つ資料や情報を提供することはもちろん、府立図書館と府内の市町村立図書館等の蔵書700万冊をインターネット上で瞬時に一括検索できる「京都府図書館総合目録」のシステムを構築するとともに、市町村立図書館等の利用者が必要とする図書等を搬送する「連絡協力車」を巡回運行することにより、南北に長い府内全域に均質な図書館サービスを提供するよう努めている。

連絡協力車は、全ての市町村立図書館等及び府立高等学校、府立盲学校・聾学校、連携する府内大学図書館、国立国会図書館関西館、府立京都学・歴彩館等を巡回している。

各図書館等の利用者は、システムで検索して見つけた他の図書館の図書を地元の図書館まで取り寄せて利用することができ、連絡協力車で運ばれるため送料の負担もない。府内のどこに住んでいても、地元の図書館で高度な図書館サービスを楽しむ環境の充実に向けて、今後も取り組んでいく。

(1) 京都府図書館総合目録ネットワーク

京都府図書館総合目録ネットワーク（以下「K-Libnet」という。）とは、京都府内の公共図書館等の相互協力を推進するため、当館がセンター館となって運営するウェブアプリケーション「K-Libnetシステム」を基盤とし、資料の相互貸借及びそのための物流網（当館が運行する連絡協力車）を含むネットワーク全体のことをいう。

平成28年度末時点で、府立図書館、府立京都学・歴彩館及び全ての市町村立図書館等30機関がネットワークに参加している。

京都府図書館総合目録ネットワーク参加館の区分（平成29年4月改正規程）

区 分	摘 要	
A 参加館	K-Libnetシステム内の「京都府図書館総合目録」に自館の蔵書データを提供し、他の参加館と相互協力を行う館（すなわち、図書の所蔵データを「京都府図書館総合目録」で検索できる館）。 さらに、蔵書データの提供方法によって以下のとおり細分化する。	
	横断検索館	総合目録からの横断検索に対応し、リアルタイムで自館の蔵書データを提供する館
	データ提供館	総合目録に定期的に自館の蔵書データを直接送信して提供する館
	CiNii検索館	CiNiiBooksに参加し、総合目録からCiNiiBooksへの横断検索によって自館の蔵書データを提供する館
B 参加館	総合目録への自館の蔵書データの提供は行わないが、K-Libnetシステムを利用して他の参加館との相互協力を行う館	
C 参加館	府立の教育機関	

平成28年度は、府立学校向けの学校支援機能（「C参加館」機能）のテスト運用を12月から開始した。また、国立情報学研究所のCiNiBooksを利用して、府内の大学の蔵書を京都府図書館総合目録で検索する実証実験を12月～1月に行った。

これらを踏まえて、平成29年4月にネットワークの運営規程を改正し、同月から府立学校49校及び京都教育大学附属図書館が正式に参加することとなっている。

京都府図書館総合目録ネットワーク参加館一覧（平成28年度末）

	図書館・読書施設名	A参加館		B参加館
		横断 検索館	データ 提供館	
1	府立図書館 [センター館]	○		
2	府立京都学・歴彩館	○		
3	京都市図書館 (20館)	○		
4	向日市立図書館	○		
5	長岡京市立図書館	○		
6	大山崎町立中央公民館図書室		○	
7	宇治市中央図書館	○		
8	城陽市立図書館	○		
9	久御山町立図書館	○		
10	八幡市立八幡市民図書館	○		
11	京田辺市立中央図書館	○		
12	井手町図書館	○		
13	宇治田原町立図書館		○	
14	木津川市立中央図書館	○		
15	精華町立図書館	○		
16	笠置町中央公民館図書室			○
17	和束町体験交流センター図書室			○
18	南山城村図書室			○
19	亀岡市立図書館中央館	○		
20	南丹市立中央図書館	○		
21	京丹波町中央公民館図書室等 (3館)		1	2
22	綾部市図書館	○		
23	福知山市立図書館中央館	○		
24	舞鶴市立図書館 (2館)	○		
25	宮津市立図書館		○	
26	与謝野町立図書館 (3館)	○		
27	伊根町コミュニティセンターほっと館図書情報室			○
28	京丹後市立図書館 (6館)	○		
29	京都ライトハウス情報ステーション			○
30	京都学園大学図書館		○	
各参加区分小計		47館	5館	
A・B参加館区分小計		52館		7館
参加館合計		59館 (30機関)		

(注)・参加館は平成28年度末、参加区分は平成29年4月改正後の規程による。
 ・京都教育大学附属図書館及び府立学校（全高等学校、盲学校及び聾学校）は、平成29年4月から参加予定。

(2) 連絡協力車

府内の市町村立図書館等との相互貸借図書の搬送や情報交換、府立学校への図書の搬送等のため、巡回機関を5コースに分けて、週1回連絡協力車を運行している。

府立高等学校については、中継点となる公立図書館から距離がある学校を中心に巡回していたが、学校支援セットの利用希望が増加したことなどから、平成25年度に直送による図書の搬送も取り入れ、平成27年4月からは全校巡回を開始した。

平成28年7月には、大学図書館との連携拡大の一環として、京都大学附属図書館との相互貸借の試行を開始し、連絡協力車を巡回させることとした。

なお、市町村立図書館等との協議を踏まえ、府民の利便性のより一層の向上を図るため、平成29年4月からは週2回巡回することとなっている。

連絡協力車の巡回機関

区 分	摘 要
公立図書館等	市町村立図書館・読書施設（全26市町村）
大学図書館	京都学園大学図書館、京都大学附属図書館（7月から試行）
連携機関	国立国会図書館関西館、府立京都学・歴彩館、京都ライトハウス情報ステーション
府立学校	高等学校（全47校）、盲学校・聾学校

図書の搬送実績

（単位：冊）

区 分	搬送冊数	摘 要	
府内相互貸借	当館 ⇒ 市町村立図書館等	19,178	
	市町村立図書館等 ⇒ 当館	1,446	
	市町村立図書館等 ⇔ 市町村立図書館等	30,574	
府立学校機関貸出	当館 ⇒ 府立学校	4,003	
学校支援セット貸出	当館 ⇒ 府立学校・市町村立図書館等	17,505	直送を含む。
合 計		72,706	

(3) 図書館・読書施設等職員研修

府内の市町村立図書館等に勤務する職員の資質向上のため、研修を毎年度実施している。

平成28年度は、経験年数に応じたステップ別研修として、図書館間の相互協力に関する初任者研修を5月に、レファレンス研修（初級）を7月に実施するとともに、府内各地域への出前研修として、児童サービス（読み聞かせ）に関する研修を9～10月に2会場で、データベースのレファレンスへの活用に関する研修を1～2月に2会場で実施し、合計で延べ142人の参加があった。

(4) 京都府図書館等連絡協議会

「京都府図書館等連絡協議会」（略称：京 図 連 協^{きょう と れん きょう}）は、本府における図書館事業等の振興及び相互の協力を図ることを目的とする組織であり、全26市町村の図書館・読書施設をはじめとする府内の49施設で構成され、当館に事務局を置いている。

京図連協は、研修研究事業・相互協力事業・広報事業など、府内一円での図書館サービスの向上に向けた取組を毎年度実施しているほか、「京都図書館大会」の実行委員会に参画したり、京都府教育委員会と共催で「子ども読書本のしおりコンテスト」を開催したりするなど、他機関との連携にも努めている。

2 学校支援

(1) 学校支援セット

「学校支援セット貸出」は、調べ学習や朝読書に役立つ図書を当館において整備し、環境や文化、仕事や防災等のジャンル・テーマごとに数十冊のセットにして府内の小・中学校及び高等学校に貸し出す取組で、平成20年度に開始した。毎年、セット内容の充実と利便性の向上に努めており、利用実績は近年大幅に増加している（貸出冊数はⅢ-11参照）。

平成28年度は、府立高校の申込みについて、インターネット（「京都府図書館総合目録ネットワークシステム」）でも行えるよう、テスト運用を開始した。従来はエクセルの様式に必要な事項を記入してメール等で送信する方法であったが、12月からはシステムにログインし、学校支援セットの一覧画面からそのまま申込み画面に移行可能とするなど、利便性を向上させた。

小中学校版のセットについては、最新の情報で調べ学習ができるよう、発行後5年以上が経過して内容が古くなった図書について改訂版や新たに選書した別の図書に大幅に差し替えるなど、常に学校の意見を聞きながらそのニーズに応えるべく取り組んでいる。

学校支援セットの内容

区 分	ジ ャ ン ル
高 校 版	環境／医療福祉／教育／文化／社会／仕事／自然科学／芸術／ミニ版セット／YA（ヤングアダルト）／切り抜き速報
小中学校版	環境／古典／ことば／食育・健康／福祉・人権／国際理解／仕事／自然科学／防災／歴史・社会／国語教科書掲載作品／芸術・スポーツ／YA

(2) 来館型調べ学習等

府立図書館の学校支援事業の一環として、小・中学生、高校生、大学生、専門学校生の見学や「調べ学習（探求型学習）」、府内の教職員の研修や市町（組合）教育委員会の視察等を受け入れている。

来館型調べ学習等の受入内容

主な対象	内 容 ・ ね ら い
小 学 生 中 学 生	【図書館見学】 府立図書館の閲覧室はもちろん自動化書庫等図書館内を案内し、約120万冊の蔵書規模を実感させるとともに、地元の図書館や学校図書館と府立図書館との役割分担について理解させる。
高 校 生 大 学 生 専 門 学 校 生	【調べ学習】 館内を見学し、図書館の利用法や資料の探し方の説明を受けた後、それぞれのテーマに沿って、府立図書館の資料を利用した調べ学習・探求型学習を行う。
教育委員会 教 職 員	【視察等】 府立図書館の学校支援制度の活用を促すため、教員を対象とする講座等に場所を提供し、併せて館内見学を実施しているほか、教育委員会の視察も受け入れている。

学校図書館の数十倍の規模の所蔵資料を使った調べ学習が可能のほか、図書館の基本的な利用方法や、データベースによる資料の探し方なども学ぶことができ、府立京都すばる高校をはじめ

めとして18回482人が来館した。

京都教育大学の学生が当館の所蔵する教科書コレクションを使って研究した成果を当館エントランスで展示する取組も、引き続き実施した。小学2年生の国語の教科書に掲載されている「かさこじぞう」について、教科書の発行年代ごとの表記や注釈等の違いがまとめられており、各世代の来館者の興味を引いた。

来館型調べ学習等の受入実績

区 分	小・中学生	高校生	大学生	専門学校生	教職員等	合 計
回/人	2回 47人	6回 182人	2回 24人	4回 159人	4回 70人	18回 482人

3 調査研究・課題解決支援及び情報発信

(1) 大学連携

平成28年度は、京都大学附属図書館と相互貸借サービスの試行を7月に開始し、大学が所蔵する専門的な資料を、府民が地元の図書館でより容易に閲覧できるようになった。3月末には京都教育大学附属図書館との協定も締結（平成29年4月から運用）しており、今後も府民に多様な資料を提供できるよう、大学図書館との連携を図ることとしている。

＜京都図書館総合目録ネットワークを活用した相互貸借サービスのメリット＞

- ・府立図書館のホームページから府内公共図書館だけでなく連携する大学図書館の所蔵資料も一括検索できる。
- ・府民が、大学図書館の所蔵資料を居住地に近い公共図書館に取り寄せて閲覧することができる。
- ・大学の学生や教職員等が、公共図書館の所蔵資料（専門書の多い大学図書館には所蔵されていない一般書、地域の郷土資料等）を大学図書館の窓口で借りることができる。
- ・府立図書館が運行する連絡協力車を活用することにより、資料の送料が不要となる。

(2) 館内見学会

毎月第3水曜日の午後2時から定期的に行っている「館内見学会」では、①「関西近代建築の父」と呼ばれ京都市役所や同志社大学も手がけた武田五一により設計された旧館の外壁や外階段を保存修理して新館への建替を進めたこと、②都道府県立図書館では当館が初めて導入した自動化書庫と地下2階4層からなる電動積層集密書庫に、開架資料の10倍以上の膨大な資料を収めていること、③書庫の資料の中には、教科書や映画のシナリオなどのコレクションも含まれていること、④当館は、来館者向けサービスの他に、市町村立図書館支援や学校支援を行っていることなどを案内している。

平成28年度は、岡崎地域の各施設のイベント等を紹介する『春の岡崎手帖』・『秋の岡崎手帖』（京都岡崎魅力づくり推進協議会作成）で広報を行ったこともあり、12回の見学会に160人が参加された。特に市町村支援や学校支援の機能については、「府立図書館がこのような役割を担っていることを初めて知った」との感想が多く寄せられている。

(3) 図書館活用講座

当館では、府民の調査研究に役立つ資料・情報の提供に努め、レファレンスサービス（相談業務）にも力を入れており、利用者自らがデータベースなど当館の様々なツールを用いて資料・情報にたどり着くことができるよう、「図書館活用講座」を通年で実施している。

平成28年度は、図書館の様々な資料とサービスを活用して書籍を出版された方の講演や、特別支援学校の教員を対象とする障害者向け音声資料の利用法の説明等これまでにないテーマにも取り組んだ。実際にデータベースなどを利用しながら学ぶ講座のため定員を設けざるを得ないという条件があるが、「鉄道」のように特定の層に訴求するテーマを取り上げたり、より幅広い世代の方が参加できるように土日祝に開催したりするなど工夫し、10回の講座に88人が参加された。

また、府の「インターネット放送局 生涯学習講座」に「新聞記事の調べ方」「法令・判例の探し方」等の動画を5本掲載して、活用講座の内容をいつでも視聴可能にした。

図書館活用講座の実施状況

開催日	テ ー マ ・ 演 題 等	参加者数
5/19(木)	判例の探し方	5人
6/16(木)	データベース「ヨミダス歴史館」の利用方法	5人
7/27(水)	データベース「ジャパナレッジ」の利用方法	6人
9/22(祝)	図書館の利用方法～鉄道関連資料の調べ方	11人
10/23(日)	映画『お引越し』上映会・関連雑誌の探し方	15人
11/16(水)	データベース「日経テレコン21」の利用方法	9人
12/17(土)	「見たい教科書を探してみよう」(当館所蔵教科用図書の見つけ方)	3人
1/14(土)	「本を作ろう」(製本体験)	8人
2/11(祝)	「図書館は魔法の玉手箱？—史料に会う愉しみ—」 講師：元亀岡市副市長 山崎達雄氏 内容：著書の執筆にあたり利用した図書館サービスについて	17人
3/7(火)	「府立特別支援学校で活用できる図書館資料について」 特別支援学校教員が主な対象 京都ライトハウス情報ステーションと共催	9人
合 計		88人

(4) 講演会等

平成28年度は、これまで府教育委員会が培ってきた様々な大学との繋がりを活かし、「府立図書館連続講座」を土日に開催し（詳細は下表のとおり）、6回で469人が参加された。図書館の強みを活かした取組として、会場に講座のテーマに関連する図書を展示し図書リストを参加者に配布したり、当該図書を集めたコーナーを館内に設置したりするなど、講演の後も学びを深めていただけるよう工夫した。

また、京都大学大学院理学研究科附属花山天文台の協力を得て、岡崎地域の夜間イベントに併せて実施した8月の「4次元デジタル宇宙シアター」は大盛況で、1月にもアンコール企画として2日連続で実施した。三代目林家染二師匠による「府立図書館落語会」では、お囃子や効果音等の実演を交えた落語講座も挟まれるなど、学びの場である図書館ならではの取組として好評を得た。

「館長プロデュース府立図書館連続講座」の実施状況

開催日	講 師 及 び 演 題
7/10(日)	築山崇氏(京都府立大学 学長) 「地域を拓く学びへー私の出会った素敵な人たち、そして本・図書館」
8/14(日)	尾池和夫氏(京都造形芸術大学 学長) 「都を生み出した活断層」
9/11(日)	柴田一成氏(京都大学大学院理学研究科 教授) 「宇宙を知ろうー太陽・地球・宇宙人ー」
10/1(土)	安本義正氏(京都文教短期大学 学長) 「赤米に学ぶ古代からのメッセージ」
11/5(土)	金光桂子氏(京都大学大学院文学研究科 准教授) 【古典の日記念講座】 「源氏物語を愛した人々」
12/24(土)	石川尚人氏(京都大学大学院人間・環境学研究科 教授) 「南極の自然、その地球環境との関わり」

その他の主なイベントの実施状況

開催日	内 容	参加者数
8/11(祝)	岡崎プロムナード 星の饗宴連携企画 「宵の図書館～音楽と宇宙と笹と」 ・京都府立桃山高等学校吹奏楽部「野外演奏会」 ・京都大学大学院理学研究科附属花山天文台 「4次元デジタル宇宙シアター」 ・京都府立大学学生企画「笹に願いを」	45人×2回 (シアター)
1/27・28 (金・土)	宵の図書館アンコール企画 京都大学大学院理学研究科附属花山天文台 「4次元デジタル宇宙シアター」	45人×4回
2/12(日)	「京都府立図書館落語会」 林家染二、桂慶治朗、佐々木千華	100人

(5) 資料展示

「思いがけない本との出会い」を演出するため、京都に関することや季節の話題、時事問題等をテーマとして関連する当館の所蔵資料を一箇所に集めた展示を、通年にわたり実施している。作成したブックリストは展示終了後も館内やホームページで提供し、レファレンス等にも活かしている（平成28年度の展示実績は下表のとおり（年度をまたぐ展示を含む。））。

所蔵資料テーマ展示

展 示 タ イ ト ル	時 期	協力機関・関連イベント等
1 階 小 展 示		
京をつくる森	～6月	京都府「森の京都」
外国人から見た日本	6～9月	シドニー・ビエンナーレ (当館貴重資料が作品の一部として出展)
伊藤若冲生誕300年	9～12月	京都市美術館展覧会
芳醇なる京の酒文化	1～3月	協力：伏見酒造組合
お茶の京都～歌が響いたお茶の郷～	3月～	京都府「お茶の京都」
地 下 1 階 特 設 コ ー ナ ー 展 示		
印象派の巨匠 クロード・モネ	～5月	京都市美術館展覧会
未来を拓く”人工知能”の世界	5～7月	協力：府立田辺高等学校
山に親しむ本	7～8月	
日本のお米	8～10月	協力：府農林水産部
源氏物語を愛した人たち	10～2月	古典の日
書物の歴史～現在・過去・未来～	12～3月	
バーナードリーチ生誕130年	3月～	
ミ ニ コ ー ナ ー		
文化庁が京都に！	～4月	
白隠と禅の世界	4～5月	京都国立博物館展覧会
古書の魅力	5～6月	
環境	6月	
七夕（たなばた）	7～8月	京都岡崎魅力づくり推進協議会
永六輔さんを偲ぶ	7～8月	
バレエ	8月	協力：ロームシアター京都
雑誌『暮らしの手帖』とその周辺	8～10月	
京野菜とおぼんざい	9月	
河井寛次郎	10月	協力：河井寛次郎記念館
京都の遺跡と考古学	10～11月	協力：府教育委員会文化財保護課
水道に関する本	10～11月	協力：京都市水道局
家族	11月	
動乱の世を生きた女性たち	12月	
酉～その造形と文化	1月	
特集岡田節人氏	1～2月	
九条武子	2月	
西田幾多郎	3月	協力：西田幾多郎記念館

(6) 地域連携

京都有数の観光地である岡崎に立地する当館は、「京都岡崎魅力づくり推進協議会」に加盟して近隣の文化施設等と連携した様々な取組を展開するとともに、館内には近隣施設のチラシを配架し、観光情報コーナーを設置している。特に、近接する京都国立近代美術館や京都市美術館については、主な展覧会の時期に合わせて所蔵資料テーマ展示を行っているほか、過去の図録を集めたコーナーも設置している。

平成28年度も同協議会の主催する数々のイベントに参画・協力しており、新たな取組としては、8月の七夕イベント「岡崎プロムナード 星の饗宴」の連携企画として「宵の図書館～音楽と宇宙と笹と」を実施したほか、9月の芸術イベント「OKAZAKI LOOPS」では、当館の石階段前を朗読劇の開催場所として提供した。

(7) 広報

当館は明治の面影を残す「歴史ある図書館」として知られており、平成28年度も、鉄道会社の広報紙や観光ガイドマップ、地域ローカルテレビの建物探訪番組等数々の媒体に取り上げられた。

他方、サービス計画の初年度にあたり、新規事業については記者発表やプレス資料配付、ラジオ放送等で積極的に広報を行うとともに、レファレンスや相互貸借等の図書館の基本的な機能及び当館の市町村支援等の継続事業についてはラジオやテレビの生放送に職員が出演するなど周知に努めた。

当館のホームページにおいては、お知らせ欄を年間130回以上更新して、イベントの開催等の通常のお知らせのほか、特別整理期間中の作業、当館職員の研修、海外や他府県の図書館職員の視察、テレビ取材の様子等、利用者にはあまり知られていない活動についても掲載した。

また、当館は100年以上前の洋書も数多く所有しており、大森貝塚の発見で知られる明治期の学者エドワード・モースの著書3冊が、平成28年3～6月に開催されたシドニー・ビエンナーレ（国際的美術展覧会）において、府内在住の美術家により作品の構成要素として展示された。

V 施 設 等

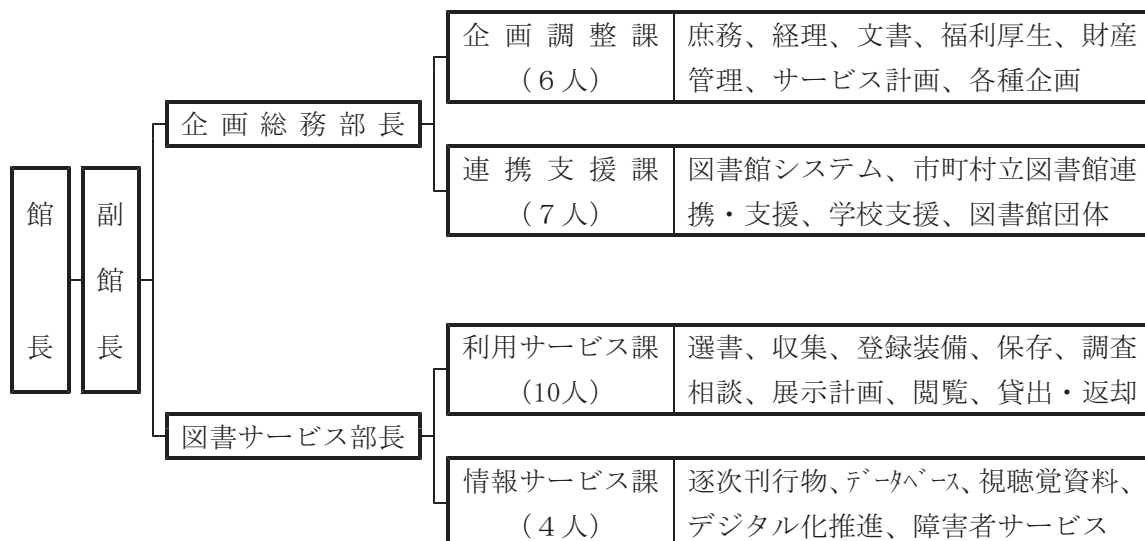
1 施設及び設備等

項 目	摘 要
所 在 地 等	〒606-8343 京都市左京区岡崎成勝寺町71番地 (平成28年9月30日改正条例公布、平成29年4月1日施行) TEL : 075-762-4655 FAX : 075-762-4653 ホームページ : http://www.library.pref.kyoto.jp/
開 館 日	平成13年5月11日 (建替による新館開館。府立図書館設置は明治31年)
建 築 費	617,415万円 (外構工事・設備・家具等を含む。)
収 蔵 規 模	約150万冊 (平成28年度末資料数 約125万冊) ・書架 (1,710㎡) 約10万冊 ・書庫 (1,776㎡) 電動積層集密書庫 約100万冊 自動化書庫 約40万冊
利用者用端末	<ul style="list-style-type: none"> ・蔵書検索 当館蔵書検索用端末 (OPAC) 14台、他館蔵書検索用端末6台 ・データベース データベース閲覧端末9台、新聞記事データベース閲覧端末5台、 新聞デジタル版閲覧端末4台、CD-ROM閲覧端末2台 ・国会デジタル 国立国会図書館デジタル化資料送信サービス閲覧端末3台 ・インターネット インターネット閲覧端末18台、インターネット等閲覧申込用端末2台 ・その他マルチメディア等 マイクロフィルム閲覧端末3台、映像ブース8台、音声ブース4台 障害者サービス用端末3台
開 館 時 間	火曜日～金曜日：午前9時30分～午後7時 土・日曜日、祝日：午前9時30分～午後5時
休 館 日	月曜日 (祝日及び振替休日は開館、翌日が休館) 毎月第4木曜日 (祝日は開館) 年末年始、特別整理期間

2 組織 <平成29年4月1日現在>

常勤職員 30人

非常勤職員 18人（館長1人・再任用1人・嘱託15人・臨時職員1人）



3 経費

(単位：千円)

科目	事項	28年度決算額	摘要
図書館費	人件費	269,070	
	資料費	54,747	図書48,699、逐次刊行物6,048
	事業費	172,152	
	小計	495,969	
図書館費外	人件費	2,875	
	事業費	930	
	小計	3,805	事務局費/教育連絡調整費/人事管理費
合計		499,774	

VI 沿革

1 年表

明治31年(1898) 4月	府立京都図書館御苑内創立	昭和26年(1951) 9月	本館大閲覧室屋根修理着工休館
" 6月	業務開始	" 10月	本館蔵書一部知恩院倉庫に別置
33年(1900)	夜間開館開始	" 11月	本館大閲覧室安全開架式化
36年(1903) 10月	巡回図書館(貸出文庫)制度開始(昭和25年3月廃止)	" 12月	本館新体制で開館
38年(1905) 4月	児童室開設(大正14年3月閉鎖)	27年(1952) 6月	本館読書相談係設置
39年(1906) 6月	館外貸与規則制定告示	" 7月	園部地方分館開館(園部町立図書館内、昭和41年11月閉館)
" 11月	新館起工式		北桑田地方分館開館(京北町下中、昭和54年8月(京北農業協同組合弓削支所内)仮移転、同55年3月閉館)
42年(1909) 2月	新館竣工		木津地方分館開館(旧役場内、昭和29年7月(木津小学校内)、同38年5月(町民センター内)移転、同50年3月閉館)
" 3月	京都府立京都図書館規則告示	28年(1953) 4月	本館月曜日休館を実施
" 4月	新館開館	29年(1954) 2月	伏見分館新築工事着工
大正 8年(1919) 1月	本館図書分類目録編纂に着手	" 9月	京都府立図書館「善本目録」作製
11年(1922) 4月	貸出文庫を増設	30年(1955) 9月	青年学級文庫実施
昭和 3年(1928) 3月	帯出規程告示	32年(1957) 6月	中京分館(河原町分館改称)開館(烏丸庁舎内、昭和40年1月(京一商同窓会館)仮移転、同40年11月(京都府中京庁舎内)移転、平成13年3月閉館)
" 4月	個人貸出実施	35年(1960) 10月	中京分館館外貸出実施
" 6月	和漢図書分類目録分類表12冊作製	38年(1963) 3月	本館読書相談係・学生自由閲覧室・貸出文庫閉鎖、蔵書の一部を府立総合資料館へ移管
8年(1933) 10月	京都府中央図書館に指定	" 11月	本館日曜・土曜午後・夜間休館
16年(1941) 5月	児童室復活開室(昭和23年4月元貴賓室に移転)	" 12月	児童室土・日曜休室
22年(1947) 8月	館外貸出廃止	39年(1964) 1月	本館外装改修工事
23年(1948) 9月	読書ルーム開設(河原町丸善京都店地下)	" 5月	本館夜間・土曜午後再開(9時まで)、貸出室設置
24年(1949) 4月	読書相談開始		児童室館外貸出実施、土曜日開室
" 6月	河原町分館開館(河原町丸善京都店地下、昭和31年9月閉館)		伏見分館館外貸出実施
25年(1950) 2月	伏見分館開館(伏見信用金庫2階、昭和29年7月移転、同63年3月閉館)	" 7月	市内分館日曜日休館
" 6月	宮津地方分館開館(宮津町役場内、昭和28年4月(宮津市図書館内)、同32年10月(労働センター内)、同39年5月(宮津市立図書館内)、同46年8月(新宮津市立図書館内)移転、平成9年3月閉館)	40年(1965) 7月	児童室に母親文庫設置
" 7月	綾部地方分館開館(綾部市立図書館内、昭和38年7月(市民センター内)移転、同41年9月閉館)	" 9月	京都府教育委員会基本規則一部改正
" 8月	学生自由閲覧室新設		教育庁係等設置規程一部改正により図書館に課制実施
" 11月	京都府立図書館設置条例公布(条例第62号)	41年(1966) 11月	自動車文庫命名式(蝸川知事「あゆみ号」と命名)
昭和26年(1951) 4月	上京分館開館(北区紫郊会館内、昭和31年5月(桜谷文庫内)移転、同51年5月閉館)		移動図書館事業開始(平成2年12月終了)
		42年(1967) 7月	本館修繕工事
		" 9月	貸出室移転再開

昭和44年(1969)12月	本館夜間閉館時間を7時に変更	平成 2年(1990) 3月	「点字・録音図書目録(点字版)」刊行
46年(1971) 8月	本館貸出室の図書を閲覧室に統合、第2閲覧室開室 貸出方式をブラウン方式に切替	〃 4月	連絡協力車事業本格実施
48年(1973) 4月	上京分館館外貸出実施	〃 6月	機構改革により本館は4課組織に
50年(1975) 3月	身体障害者用便所・スロープ新設	3年(1991) 3月	本館模様替内装工事(受付カウンター・新聞雑誌室等配置換)
〃 5月	本館(閲覧室・中央カウンター・新聞雑誌室開設)内装工事 本館閲覧室を完全開架式に切替	〃 6月	マイクロリーダープリンターのサービス開始
51年(1976) 4月	本館閲覧用目録作成に着手	〃 8月	「連絡協力車だより」発刊
〃 6月	京都府図書館等連絡協議会発足、府立図書館に事務局を置く	4年(1992) 9月	毎月第2土曜日 児童室 午前9時半から開室開始
〃 7月	児童室改修工事	5年(1993) 3月	「京都府の公共図書館 1992年版」刊行
53年(1978) 3月	本館改修工事(外装・屋根葺替・玄関・防災設備) 本館閲覧用目録整備完了	6年(1994) 3月	「京都府公共図書館等所蔵雑誌・新聞総合目録」を京都府図書館等連絡協議会、京都府立総合資料館と共同刊行
54年(1979) 3月	本館書庫改修工事	7年(1995) 2月	阪神・淡路大震災(1月17日)による本館一部被害の補修・補強工事実施
〃 4月	国会図書館からの図書貸出制度発足 本館自習室閉鎖	〃 5月	本館老朽化による安全対策のため館内模様替え(事務室の1階への移動等)実施。5月1日から2箇月間臨時休館(7月3日再開館)
〃 11月	「専門情報機関要覧」刊行	〃 8月	連絡協力車北部コースの運行を月2回に拡充(全市町村月2回運行)
56年(1981) 9月	移動図書館用電動集密書架設置	〃 9月	一般図書室の天井一部損傷による補修工事実施。9月18日から臨時休館(10月16日再開館)
〃 12月	伏見分館改修工事	〃 12月	京都府社会教育委員会議が京都府教育委員会教育長に「生涯学習社会を展望する京都府の図書館の在り方について(提言)」を提出
57年(1982) 7月	障害者サービス(対面朗読)実施	8年(1996) 3月	平成8年度当初予算に府立図書館整備費を計上
58年(1983) 2月	生涯教育推進事業として読書推進講座実施	〃 9月	新府立図書館建設基本計画の概要を発表 9月補正予算に基本設計費等を計上
〃 3月	「京都府の公共図書館」刊行 伏見分館ブックポスト設置	9年(1997) 3月	平成9年度当初予算に実施設計費等を計上
〃 6月	図書館協力貸出本格実施	〃 4月	新館整備のため本館を休館
〃 7月	新着図書案内発行	〃 9月	本館仮施設(京都市下京区、旧中小企業総合指導所)へ移転完了
59年(1984)12月	連絡協力車試験的運行開始(2コース)	10年(1998) 3月	府立図書館解体工事及び壁面(東側前面)保存工事完了 平成10年度当初予算に新館建設工事費等を計上
60年(1985) 7月	国立国会図書館とのオンライン利用実験実施	〃 7月	総合資料館蔵書との一体的データ化作業開始
61年(1986) 8月	京都府教育委員会教育長から「生涯学習社会を展望する京都府の図書館のあり方」を京都府社会教育委員会議へ諮問		
〃 12月	昭和61年度全国公共図書館参考事務研究集会開催		
62年(1987)10月	国立国会図書館とオンライン実施		
63年(1988) 3月	「京都府の公共図書館1987年版」刊行		
〃 10月	図書館資料広域貸出事業開始 「京都府公共図書館等所蔵雑誌・新聞総合目録」を京都府図書館等連絡協議会と共同刊行		

平成10年(1998) 9月	本館事務室の再移転(旧中小企業総合指導所から隣接の旧女子高等技術専門校へ)	平成20年(2008)	源氏物語千年紀記念事業(小展示・パネル展等)開催
〃 11月	新府立図書館新築工事起工式	5月	インターネット貸出延長サービス開始
11年(1999) 2月	平成10年度近畿地区公共図書館研修開催	〃 9月	学校支援セット貸出開始
〃 3月	平成11年度当初予算に新築工事費等計上	21年(2009) 3月	所蔵音声資料の音声目録CD-ROM(デジタル版)作成、配布
〃 6月	「日本目録規則1987年版改訂版」「日本十進分類法新訂9版」「日本著者記号表改訂版」採用	〃 6月	府立図書館「岡崎」100周年記念事業(小展示・パネル展等)開催(～22年3月)
12年(2000) 3月	平成12年度当初予算に新築工事費等計上	〃 9月	府立図書館「岡崎」100周年記念パンフレット作成
〃 5月	国立国会図書館総合目録ネットワーク参加	〃 11月	国立国会図書館関西館との連携(連絡協力車の運行)
〃 10月	新館竣工	22年(2010) 4月	学校支援セット貸出小中用CD-ROM目録を作成、配付
〃 11月	仮施設から新館に移転、開館準備作業本格化	〃 9月	京都府立医科大学附属図書館と連携した府民講演会開催
13年(2001) 2月	仮施設及び府立総合資料館からの図書資料移転終了	〃 10月	新着図書お知らせサービス開始
〃 4月	京都府教育委員会基本規則を一部改正して図書館の職を整備し、教育庁地方機関等の課等設置規程を一部改正して2課制(総務課:2係、資料課:4担当)施行	23年(2011) 4月	祝日開館を実施
〃 5月	京都府立図書館の管理運営に関する規則(平成13年京都府教育委員会規則第1号)施行	〃 8月	学校支援ポータルサイト開設
〃 6月	京都府立図書館個人貸出規程等、各種規程施行	〃 12月	館内全面禁煙の実施
14年(2002) 4月	京都府立図書館総合目録ネットワークのインターネット発信開始	24年(2012) 4月	京都大学研究者等と連携したサイエンスイベント開催
15年(2003) 2月	館内完全分煙実施	〃 8月	子ども読書本のしおりコンテスト実施
18年(2006) 4月	インターネット貸出待ち登録サービス開始	〃 11月	府立図書館サービス計画策定
〃 5月	電話による貸出延長サービス開始	25年(2013) 3月	図書館活用講座実施
〃 12月	京都府図書館総合目録ネットワークに府内全市町村が参加	〃 7月	府立図書館のシンボルマークと和文ロゴタイプ作成
19年(2007) 3月	取寄せ申込みeサービス開始	〃 9月	24年度図書館評価(試行)を社会教育委員会議で報告
〃 4月	連絡協力車の一部の府立高校への巡回開始	26年(2014) 9月	学校支援セットの府立高校(非巡回校)への直送実施
		27年(2015) 4月	国立国会図書館デジタル化資料送信サービス開始
		〃 6月	府民利用施設のあり方検証において「見直すべき施設」に区分
		28年(2016) 3月	連絡協力車の全府立高校への巡回開始
		〃 4月	サビエ/視覚障害者情報総合ネットワークのサービス開始
			府立図書館サービスの充実に向けた検討会議設置
			図書館システム更新
			府立図書館基本方針及び府立図書館サービス計画策定
			京都府教育委員会基本規則を一部改正して図書館の職を整備し、教育庁地方機関等の課等設置規程を一部改正して部課制(企画総務部:2課、図書サービス部:2課)施行(1日)

平成28年(2016) 4月	カーリル社と連携協定締結	平成28年(2016)12月	京都府立図書館協議会委員の第1期委員公募開始
〃 7月	京都大学附属図書館との相互貸借試行開始		府内図書館等館長会議開催
〃 9月	図書館協議会設置のため、京都府立図書館設置条例全部改正、京都府立図書館条例公布(29年4月1日施行)	29年(2017) 2月	全国の公立図書館初のクラウドソーシング開始
〃 11月	京都府図書館総合目録ネットワークシステムの充実を図る産官学連携プロジェクト開始	〃 3月	京都教育大学附属図書館との相互貸借に関する連携協定締結(運用29年4月～)

2 歴代館長

氏名	在職期間
三宅 五郎三郎	明治31年4月～明治33年3月
原田 千之助	明治33年3月～明治33年12月
中道 貫一 (館長心得)	明治34年1月～明治34年2月
三宅 五郎三郎	明治34年4月～明治37年3月
湯浅 吉郎	明治37年3月～大正5年5月
北畠 貞顕	大正5年10月～昭和15年11月
内藤 乾吉	昭和15年11月～昭和22年7月
西村 精一	昭和22年7月～昭和38年10月
相馬 利雄	昭和38年10月～昭和45年8月
岩崎 彰之助	昭和45年8月～昭和47年4月
吉川 博明	昭和47年4月～昭和48年6月
庄林 二三雄	昭和48年6月～昭和49年4月
宮本 英男	昭和49年4月～昭和50年3月
布村 忠雄	昭和50年4月～昭和55年4月
長谷川 啓司	昭和55年4月～昭和56年4月
浜辺 一彦	昭和56年4月～平成元年7月
上田 将 (本庁指導部長兼任)	平成元年7月～平成元年9月
林 芳男	平成元年9月～平成4年4月
柴田 實	平成4年4月～平成6年5月
高木 多喜男	平成6年6月～平成8年3月
五十嵐 一郎	平成8年4月～平成10年3月
西山 隆史 (本庁指導部長兼任)	平成10年4月～平成10年5月
小山 雄一	平成10年6月～平成13年3月
中里 隆憲	平成13年4月～平成16年3月
津守 俊一	平成16年4月～平成19年3月
松田 定	平成19年4月～平成21年3月
勝間 喜一郎	平成21年4月～平成24年3月
宮野 文穂	平成24年4月～平成28年3月
丸川 修	平成28年4月～

京都府立図書館基本方針

(平成28年3月改定)

図書館は、人々が知的で創造的な人生をおくるため、人類の知的遺産である出版物を中心とした文化資源を適切に収集・保存し、活用・発信する場です。

京都府立図書館は、この理念を踏まえ、変化の激しい社会において、新たな課題に直面する府民の知的活動の拠点となるとともに、府内全域に均質な図書館サービスを提供することにより、府民に期待される存在となることを目指します。

I 府内全域の図書館をつなぎ、支援するとともに、協力して図書館サービスを展開します

各公立図書館・学校図書館等の活動を支援しつつ、各館と協力することによって、府内の図書館サービスを充実させます。また、府民に的確に情報を提供するため、各公立図書館・学校図書館等と大学図書館等をつなぎ、府内の各種図書館のハブとしての機能を果たします。

II 多様な文化資源の情報を取り扱い、歴史と立地を活かしながら、幅広い調査研究のニーズに応えます

府立図書館の役割に応じた選書を行いつつ、多様な文化資源に関する情報を取り扱います。また、様々な情報を求める人々が利用しやすい図書館サービスを提供し、高度な知的要求に応えます。さらに100年を超える府立図書館の歴史と文化施設が集中する岡崎という立地を最大限に活かします。

III 議論し発信する場を提供し、課題を解決する拠点となることにより、文化の創造と地域の活性化に寄与します

多様な議論を展開しながら新たな情報を創造していく場を設定し、提供することにより、各機関・団体と連携し、様々な課題の解決につながる調査研究を支援します。あわせて、その成果を発信する拠点となり、こうした活動が各地で展開されるよう働きかけます。これらを通じて、京都の文化の創造と府内各地域の活性化に寄与します。

京都府立図書館資料収集方針

(平成28年3月改正)

京都府立図書館は、創設以来百年を超える収集資料を継承し、府内の中核的図書館として、現在及び将来の利用者のために、多様かつ的確な情報により資料を選定し、収集し、保存する。

1 基本的な考え

- (1) 府民の調査研究の拠点及び生涯学習を支援する図書館としてふさわしい資料を収集する。
- (2) 府内図書館ネットワークのセンターとして、市町村立図書館及び学校図書館振興のための資料を収集する。
- (3) 京都府立総合資料館をはじめとする文化施設との連携を考慮し、資料を収集する。
- (4) 多様な意見のある事柄については、幅広い観点から資料を収集する。

2 収集する資料

- (1) 収集する資料の種類は、図書、逐次刊行物、映像・音響・電子資料、障害者向け資料等とする。
- (2) 収集部数は原則として1部とする。
- (3) 収集した資料は、原則として永年保存とする。

3 収集方法

購入、寄贈等により収集する。

4 資料収集の協議

重要事項については、収集委員会により協議する。

5 資料選定の具体的基準

収集する資料の選定については、別に定める資料収集基準による。

京都府立図書館 サービス計画を策定しました！

京都府立図書館では、「京都府立図書館サービス計画（平成 28 年度～平成 32 年度）」を策定しましたので、お知らせします。

この計画は、広く府民を対象としたアンケート(※)を実施し、あわせて外部有識者で構成する検討会議でいただいた御意見を反映して策定したものです。

京都府立図書館は「図書館」の新たな可能性を切り拓きます

図書館は、人々が知的で創造的な人生をおくるため、人類の知的遺産である出版物を中心とした文化資源を適切に収集・保存し、活用・発信する場です。

この理念を踏まえ、京都府立図書館は、従来からの市町村支援機能と調査研究支援機能を十分に発揮しつつ、府立図書館が持つ資源を最大限活用して、新たな課題に直面する府民の知的活動の拠点となります。

現在、図書館をはじめ、文化・教育を取り巻く環境は、激しく変化しています。そのなかで、府立図書館が十分に存在感を発揮するためには、常に斬新なサービスに挑戦し、新たな価値を造り出す必要があると考え、府民に期待される存在となることを目指します。

サービス計画から ピックアップ！

◆ サービスデザインチームの設置

職員と図書館活動に関心のある外部の団体・個人によるサービスデザインチームを設置し、実験的なサービスや新しい事業に取り組みます。その成果を広く公開し、波及させることで、新事業の芽を作ります。

◆ 歴史ある図書館の演出と利用しやすい空間の構成

日本で最初の公立の図書館である「集書院」の伝統を引き継ぐ府立図書館の歴史を感じられる演出をするとともに、来館者が求める情報をスムーズに得られるよう案内します。

◆ 知的な交流の場の創設

多様な人々が互いに学び合い、対話・議論を行うことができる「知的な交流の場」を設置し、京都で活動する様々な個人や団体をつなぎ、課題を解決する拠点となります。

◆ 行政支援サービスの推進による府民への貢献

行政機関が課題解決に向けた施策を企画立案するためには、的確で幅広い情報を入手することが必要です。このため、府立図書館が行政支援サービスを行うことを通じて、府民への新たな貢献を目指します。

※府立図書館に関する府民アンケート調査

調査期間：平成 27 年 7～8 月

調査対象：住民基本台帳からの無作為抽出による郵送方式（4,000 名対象→有効回答 1,814 名）

図書館ホームページ上での WEB 方式（回答 680 名）

「京都府立図書館サービス計画(平成 28 年度～平成 32 年度)」

概 要

背景

かつて認識されていた「図書館像」は、貸出サービス中心のものです。現在、府立図書館はじめ各図書館は、社会の要請や利用者の求めに応じて、地域の実情に即した新しい形のサービス運営に努めています。

さらに、ICTの発展による情報の形態の多様化と、書籍をめぐる状況の激変のなかで、府立図書館も新たな役割を模索しています。

基本方針Ⅰ

府内全域の図書館をつなぎ、支援するとともに、協力して図書館サービスを展開します

- | | |
|----------------------|--------------|
| 1 府内の各図書館とのネットワークの強化 | 3 学校支援の充実 |
| 2 市町村立図書館等への支援 | 4 子ども読書活動の支援 |

基本方針Ⅱ

多様な文化資源の情報を取り扱い、歴史と立地を活かしながら、幅広い調査研究のニーズに応えます

- | | |
|-----------------------------|---------------------|
| 5 多様な資料の収集・整理・提供 | 11 非来館サービスの充実 |
| 6 十分な収蔵空間の確保による資料の的確な保存 | 12 障害者サービス等の拡充 |
| 7 資料館・博物館・大学等と連携した文化資源の情報発信 | 13 「歴史ある府立図書館」の演出 |
| 8 電子図書館サービス・デジタルアーカイブなどへの展開 | 14 入りやすく利用しやすい空間の構成 |
| 9 所蔵資料紹介・レファレンス業務の充実 | 15 職員の育成 |
| 10 来館者への貸出サービス等の充実 | |

従来の機能を核に

基本方針Ⅲ

議論し発信する場を提供し、課題を解決する拠点となることにより、文化の創造と地域の活性化に寄与します

新たな
挑戦

- | |
|----------------------------|
| 16 「知的な交流の場」の創設 |
| 17 府立図書館の見える化の推進 |
| 18 各種講座の実施と情報発信 |
| 19 行政支援サービスの推進による府民への貢献 |
| 20 サービスデザインチームによる新たな取組への挑戦 |

※ 3つの基本方針/20の項目/64の具体策 により、斬新なサービスを開発・提供

事業概要（平成28年度のまとめ）

平成30年1月発行

発行者 京都府立図書館

〒606-8343 京都市左京区岡崎成勝寺町

TEL (075) 762-4655 (代)

FAX (075) 762-4653

URL <http://www.library.pref.kyoto.jp/>

